

巻 頭 言

2005年6月に第1回「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」が宇都宮市で開催されたのを皮切りに、様々な都市でこれまでに10回の開催を重ねてきました。この度、その歴史ある本大会の第11回目を、ここ長野県上田市で開催するに当たり、まずは全国からご参加される皆様に、開催地を代表して歓迎と感謝の意を表します。

上田市は別所線、しなの鉄道、新幹線、上田バス、千曲バス、タクシー、市営コミュニティバス、デマンド交通など、多様な公共交通が交差するまちです。ところが、多くの地方都市と同様、市民の移動は圧倒的に自家用車に依存しています。上田市内の高校生の57.6%が家族の車で登校しているというデータもあります。一方で、上田市民の最大の不安は「車の運転ができなくなり移動手段が確保できなくなる」というアンケート結果もあります。

私が座長を務める市民有志の会「上田ビジョン研究会」では、上田市の各種計画を読み合わせ、統計データを確認し、上田市の現状について勉強を重ねてきました。その結果として、人口減少・高齢化が進み、インフラが老朽化していく中で、市街地のスプロール化、スポンジ化が進み、このままでは上田市は持続可能ではないとの現実に直面いたしました。この苦い現実を共有し、上田市を持続可能に「リバース (Reverse/Rebirth)」するために、2020年から市民・行政・事業者・金融機関・議員が参加し、垣根を越えて対話する、「上田リバース会議」を開催してきました。その中で、公共交通は持続可能なまちづくりの重要な鍵であり、脱炭素の面からも、道路などのインフラ維持の面からも、自家用車の利用機会を減らし、公共交通への転換が望まれるとの結論に至りました。

しかし、人口増加時代につくられてきたまちの形、生活スタイルを、人口減少時代に合わせて変えていくことは並大抵のことではありません。特に交通は、ここ上田市においても多くの鉄道・バス路線が廃止となり、自家用車時代へと大きく転換してきた歴史があります。再び公共交通の利用を拡大するには、まちそのものの在り方から考えていく必要があります。そのためには、市民一人一人が自分事として考え、主体的に参画しなければなりません。

この度、本大会を上田市で開催することができ、同じ志を持ち、同じように頭を悩ませ、そして、前に進んできた皆様に全国からお集まりいただき、「人と環境にやさしい交通まちづくり」について上田市民と共に考え、意見を交わす機会が持てることを心より嬉しく思っています。おりしも、2023年11月に「交通まちづくり」を主軸とした事業で環境省脱炭素先行地域に選定されました。上田市の都市計画マスタープランも今年度改定され、公共交通を中心としたまちづくりを推進しようとしています。本大会を通じて、さらにその機運が高まり、上田市においても大きな一歩を踏み出す契機となることを期待しています。

最後に、本大会を開催するにあたり多大なるご協力、ご支援を賜りました関係各位に実行委員会を代表し、厚く御礼申し上げます。

信州大学 繊維学部 化学・材料学科 教授 高橋伸英

(第11回「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」 in 上田 実行委員長)